

うろこもーしょん

春号
Vol. 03

Uroko Motion

発行 栄グループ うろこもーしょん編集委員会 〒534-0025 大阪市都島区片町1-5-4 栄ビル7F TEL.06-6354-3061

2012.4月 発行

さらなるグループの 発展を目指し、 新役員が語る決意と挑戦

◆新社長を拝命して



枚方梱包株式会社 代表取締役社長

櫻木 武志 TAKESHI SAKURAGI

今年一月に枚方梱包(株)の社長を拝命致しました。

金村弘司前社長が心血を注ぎ文字通りそれこそ「命懸け」で守って来られた「ヒラコン」を引き継ぐ事にいまだに不安と驚きを禁じ得ません。私は今まで栄運輸工業(株)や小松チューブエン지니어リング(株)で培ってきた経験と人脈を最大限発揮しながら小松製作所様並びにコマツ物流様の中で「ヒラコン」の存在価値を更に高めていきたいと思っております。その為にも、安全第一を合言葉に納期品質の厳守はもとより原価意識を持った経営に取り組んで参ります。

また、社員一人ひとりとの対話も重視し「風通しの良い会社」にしていきたいと思っております。そうすることで新しいアイデアを発掘し、改善を図りながら少しずつでも会社を発展させていきたいと考えています。まだまだ未熟な私ではございますが、精一杯の努力を惜しまない覚悟ですので皆様の御指導、御鞭撻をどうかよろしくお願ひ申し上げます。

◆新役員ご挨拶

はじめまして入社して二年になります。埼玉で生まれ就職と共に大阪に出てきました。それからコマツに三十年、コマツ物流に十年と現場改善や管理畑を歩いてきました。

君の取り柄と問われると三十年前は「職場を明るくさせる事です」と、そして今は「人を育てる事」と言っています。「お客様を第一に」「最善の努力を」そして「どうせするなら早くやれ」(成功も失敗も早くわかる)と指導しています。次回ゴルフの話でも...



栄運輸工業株式会社
枚方支店
執行役員枚方支店長

長谷川 昂

TAKASHI HASEGAWA

◆新役員ご挨拶

今年一月一日付で栄運輸工業(株)の管理本部長に就任しました木村です。

小松社長からお誘いいただいたこともあり、二十年間勤めた三井住友銀行を退職し昨年入社しました。前職では営業・審査・投資銀行業務を主に担当しておりましたが、少しでも栄グループの発展に貢献できるようがんばりたいと思っておりますのでよろしくお願ひ致します。

尚、酒はダメですが、煙草をふかしながら卓を囲むのは好きです。機会があればお声がけ下さい。



栄運輸工業株式会社
本社
執行役員管理本部長

木村 隆二

RYUJI KIMURA

COLUMN
CIS
委員会
レポート

職場の安全確保に向け、 「安全診断」を実施

私たちの業界での職場の事故は、ともすれば大きな被害となり、自分だけでなく周囲の人や家族をも巻き込んでしまうことになりかねません。CIS委員会では、事故がなく、皆さんが安心して仕事に取組めるよう、「安全診断」を導入することとなりました。

●高い意識を持ち、自らが積極的に取り組むために

私たちの職場において、絶対に安全だという方法はありません。これまでの事故事例を見て、原因となるのは設備の欠陥よりも、「うっかりほんやり」といった人的なミスが圧倒的に多くを占めています。目に見えないものに対し、どう対処するかが必要で、「自分の身は自分で守る」、「怪我をしない、させない」という意識を持ち、自らが積極的に安全な環境を作る事が大切だと考えています。



そこで今年に入り、CIS委員会です安全活動についての検討が始まりました。

●堺営業所を皮切りに、安全診断をスタート

まず、各事業所の安全に対する取組みについてのヒアリングを行い、今後の対策を検討しました。更に、活動の第一段階として、各事業所を巡回して現場状況を確認し、従業員の安全意識の活性化に繋げることを目的とする「安全診断」を行うことが決定されました。

「安全診断」は、二月十三日に堺営業所、三月十六日に枚方支店、四月に泉北支店、五月に阪神支店が予定されています。

「安全診断」後のフォローとして、指摘事項の応急対策(一週間・恒久対策(カ月)を導入し、次回の対象事業所の「安全診断」時に有効性を確認します。



「安全診断」の様子

Gマークを取得しました!

平成24年1月、栄運輸工業(株)、協栄(株)、栄トランスポート(有)の3社は安全性優良事業所としてGマークを取得しました。



◆安全性優良事業所とは

全国貨物自動車運送適正化事業実施機関(全日本トラック協会)が厳しい評価をし、認定した事業所で、Gマークは安全性優良事業所のみと与えられます。

認定取得のためには、<安全性に対する法令の遵守状況><事故や違反の状況><安全に対する取組みの積極性>の3テーマに計38の評価項目の審査があり、100点中80点以上の取得が必要となります。

◆認定取得の目的と経緯

Gマーク取得は義務化されている全乗務員対象の対面点呼に必要なIT点呼を実施するために必要で、またGマークを取得し、維持して行く過程を通じて全員で安全がいかに大切なものなのか、考える機会とされたからです。

CIS委員会のメンバーが中心となり、行政書士の先生の指導のもと約1年間取組んできました。

これを機に、よりいっそう安全活動に取組み、無事故・無災害を継続していきましょう。



ぞいてみよう!! みんなのこと。

今回は枚方エリアにある栄グループ各社をご紹介します。
また、3面では昨年12月にお亡くなりになりました、枚方梱包(株)金村弘司代表取締役社長のメモリアル特集記事を掲載しております。

事業所紹介

枚方エリアの事業所 4社をご紹介します!!

栄運輸工業株式会社 枚方支店

当事業所は長谷川支店長の下、「技術力を高める」ことを最大のテーマとし、日夜活動しております。コマツ大阪工場内に事業所があり、コマツ様の生産・輸送の一端を担っており、コマツ様の依存度が高い事業所です。

輸送部門では昨年10月に新車トレーラを購入。ドライブレコーダ、ネットデジタルコを搭載し、「安全・安心」をお客様にPRする事により、一層の受注拡大を狙っています。その後12月には新たな取組みとして、大型トラック部門への受注拡大を狙い、15トン車を購入。更に今春には、新車トレーラ2台が入り、計6台のトレーラで楽しみたい部門です。



新車トレーラ

一方、作業部門では建設機械の組立作業、機装作業、何でも請負う部門があります。昨年6月に行われたコマツ関西地区組立技能競技大会では協力企業内で2位という好成績をおさめました。また、何でも請負う部門では工場建屋のハト対

策を行い、コマツ様から喜ばれています。枚方支店は26名という少人数の支店ですが毎日元気に頑張っています。



栄技研株式会社

当社は、栄運輸工業(株)枚方支店の請負作業の管理業務を事業として1982年3月に設立しました。30年の永い歴史の過程で、時代の変化に対応すべく事業の変更及び二度の社名変更を行い、現在に至っております。永年の企業活動で、経験し、培ったノウハウを基に、2007年4月に「一般労働者派遣事業」の許可を取得し、人材派遣事業に特化しました。

社会的には、とかく問題視される人材派遣事業ですが、栄グループの企業理念を基に現在は栄運輸工業(株)阪神支店及び、小松チューブエンジニアリング(株)に当社社員を派遣しております。栄グループの一員ならではの、随所にわたる配慮で、タイムリーかつフレキシブルに人材派遣を行い、栄グループの発展に寄与できる企業を、目指しています。



事務所前にて

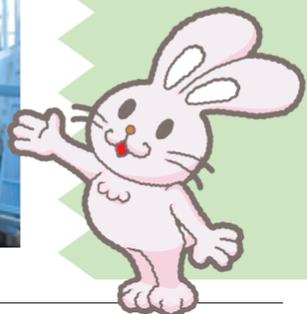
枚方梱包株式会社

当社は梱包と塗装の2つの事業を柱として展開しています。大阪と石川県加賀市に自社工場を構え、いずれも小松製作所様とコマツ物流様が主要な取引先となっております。

大阪では、様々な手法を駆使した梱包



枚方梱包栗津工場



作業と業務請負が主になっています。梱包事業における当社の強みは、建設機械の点検及び修理を行う時に交換するための補給部品の迅速な手配ができることです。

国内・海外向け問わず納品→梱包→出荷に至る工程を木箱梱包が必要な場合で48時間以内、簡易な梱包で良い部品であれば24時間以内に完了させる事が可能です。

石川県加賀市の塗装事業については、敷地の広さと立地条件の良さを活かし、メーカーで製造された建設機械の部品の集約から高品質な塗装を施すスムーズな生産体制を実現することができました。そのため、建機の生産計画に合わせて安定供給を行う工場として、小松製作所栗津工場様に活用頂き重要な拠点の一つとなりつつあります。

今後とも、各地での梱包と塗装の事業を通して得られたお客様との信頼関係を更に深め、社会の発展に寄与する企業として努力してまいります。



作業場



事務所内の様子

小松チューブ エンジニアリング 株式会社

当社は、栄運輸工業(株)枚方工場から、1989年1月に独立しました。現在は、コマツ様の大阪工場で生産しているパワートレーサやブルドーザーの油圧配管や部品製作、部品塗装を行っております。また、大阪工場に納めるだけでなく、インドネシア・ロシア・ブラジル等海外で生産される機種用の主に油圧配管を輸出しております。



2011年4月1日には栄運輸工業(株)枚方支店の家具工場と統合し、栄グループの唯一の製造会社として現在82名が働いております。

生產品のQ(品質)C(コスト)D(納期)の向上を目指し、また、①現在の生產品以外の受注、

②コマツ様や関連会社以外からの受注、③海外への進出等、新たな可能性を目指し、社員一丸となつて日々活動しております。



事務所内の様子

特集 第3弾 / おしえて、みんなのこと。

枚方エリア編 HIRAKATA AREA & メモリアル特集

特集
第3弾
栄グループ紹介

仕事の現場をの おしえて、

枚方梱包株式会社

金村弘司代表取締役社長メモリアル特集

平成二十三年十二月六日ご逝去



金村社長を偲んで

●枚方梱包株式会社
第営業部長 中村和弘さん

1965年に家業でもあった枚方製箱所(株)を手伝う事になり、そのまま枚方梱包(株)に入社。それ以来46年にも及ぶ社業の中で自身に對しても厳しく最後まであきらめない姿勢を貫き、攻めの仕事、経営に徹する故に従業員にも厳しく指導をされる事も多くありました。その一方で非常に気さくで面見が良く、誰とでもすぐに仲良くなる人でした。そんな金村社長との思い出をゆかりの多かった方々より御話しを頂戴しました。

金村弘司

枚方梱包株式会社代表取締役社長
生年月日 1947年2月28日



役職	就任日	年齢
入社	1965年10月	18歳
東大阪営業所 所長	1978年 9月	31歳
取締役	1980年 4月	33歳
常務取締役	1990年 4月	43歳
専務取締役	1998年 4月	51歳
取締役副社長	2003年 4月	56歳
代表取締役社長	2006年 4月	59歳

■ 金村 弘司 経歴 ■

年退職して3年、ある人の紹介で突然、金村社長と会ってもらえないかとの事でお会いしたのが最初の出会いでした。以来、枚方梱包(株)の粟津で御世話になる事になり、金村社長と上司・部下のお付き合いが始まりました。

関西進出時の金村社長との思い出

●枚方梱包株式会社
第営業部長 西村弘明さん

金村社長との出会いは、私が小松製作所で働いていた時です。それまでは東京町田市の一ヶ所で梱包作業を行っていましたが、海外向け補給品の輸用量が増えて一ヶ所では対応が出来なくなっていました。また運送費等を勘案したことから、昭和49年に関西地区に進出を決め、東大阪に作業場所を設けました。

枚方梱包(株)の協力企業として実績ある枚方梱包様に作業を御願いすることとなり、その時に初めて金村社長とお会いしました。とても明るく頭の低い人というのが第一印象でした。当時の金村社長は、お酒は飲めない方でしたが、仕事や遊びでお酒を覚え、いや覚えさせられたかな?最初は、慣れない作業での不具合が多数発生していましたが、非常に責任感が強く、連日対応策を検討し、問題解決してきました。また近隣の問題が発生した時にも、その都度お互い知恵を出し合うなど、波瀾万丈の時代が深い思い出として私の頭の中に残っております。

金村社長への思い

●小松商事
店長 内場忍さん

金村社長との出会いは、もう15年前になります。両親が自営業なので当時の私は仕事の手伝いをしておりました。ある時に昼間も働けるアルバイトを探していた本町の「パーラー 讃歌」で採用された事が始まりでした。勤務してから数日だったと思いますが、金村社長から「中華で頑張ってくれないか?」と言われて、はじめは「中華料理が苦手な抵抗があるのですが…」と答えたいもの、「中華を何とかしたい、是非とも協力して欲しい」と懸命な姿に心を動かされました。



金村社長への感謝と思い出

●枚方梱包株式会社
第営業部 補給部担当部長 松原勇次さん

感謝、金村社長に厳しく慈愛に満ちた御指導を頂いた事で、今の私があること心より感謝しております。



37年前義理の兄弟に始まり、数年後に上司・部下と言ふ公私共に近い関係になりました。最初から「個人的でパワフルな人」と強烈な印象がありました。独特な個性が魅力的な人物であった事は皆さんも良くご存じだと思いますが、私が知る金村社長像を少しご紹介致します。

約30年前に外食産業に参入し、店作りに準備する私に付き合っ何日も徹夜してくださりました。時には朝方までお店の運営、将来の夢を熱く語り、その顔を今でも懐かしく思い出します。また、その情熱が時を経て石川県の塗装工場の現場にも現れていました。疲れていても従業員の身体を気遣う。自分は二の次精神に感銘したものです。「現場は大丈夫ですから、社長も3日位休んで下さい」と私が言うと、笑顔で「お前も身体に気付けて頑張るや」と、そんなやり取りを昨日の事のように思い、安らかに眠り下さいと願うばかりです。

突然すぎる訃報から早くも数ヶ月が経過しました。皆様方の回顧録を拝見し幾度も込み上げる気持ちを抑えつつ編集にあたりました。今回の掲載に関して快く御協力を頂いた皆様に感謝いたしております。仕事一筋に全力疾走してきた金村社長には、櫻木社長を始めとして従業員一同が遺志を継ぎ会社を成長させるべく日々邁進している事をお伝えし、安心してゆっくりお休み頂きたいと思っております。

枚方梱包株式会社 総括部長 金村 裕司

金村社長との思い出

●枚方梱包株式会社
粟津工場 栗津工場長 大野友治さん

金村社長と私の出会いは1998年の8月であったと思います。私が小松製作所を定



昨年冬は、年末になると毎年のように飲んだり唄ったり、ゴルフをしたものです。二人で難波の街を歩くとその筋の人と間違われ通行人に避けられ、スナックへ行く石原裕次郎と川中美幸の「逢えるじゃないかまたあした」をいやらしい唄い方で聴かせ、ゴルフでは互いに譲らず、50センチ先に飛んだ等と自慢したり…もう一度元に戻せるものならと思わずにはいられません。今年北陸は雪が多く寒い日が続いていますが、櫻木社長を始め粟津工場の皆さんも頑張っていますので、安心してお休み下さい。

オープン当初はお客様も少なく、忙しい店が働きたかった私には苦痛でしたが、こう

